がん化学療法指示書

登録番号　280
作成日　2021/3/10

レジメン名	CBDCA+PEM+ﾆﾎﾞﾙﾏﾌﾞ+ｲﾋﾟﾘﾑﾏﾌﾞ療法
診療科・対象疾患	(呼)切除不能な進行・再発の 非小細胞非扁平上皮肺癌
投与間隔	6週毎
投与サイクル数	1コース

Chemo Navi

薬剤名	成分名	投与量	投与日
オプジーボ	ニボルマブ	360mg/body	Day1, 22
ヤーボイ	イピリムマブ	1mg/kg	Day1
ペメトレキセド	ペメトレキセド	500mg/㎡	Day1, 22
カルボプラチン	カルボプラチン	AUC 5(MAX6)	Day1, 22

治療内容

注射

順	滴下	抗癌剤	薬剤(成分名)	投与量	時間	投与方法	投与スケジュール day1	…	…	day22	…	…	day42
Rp1			生理食塩液	100ml	任意	ルート確保・フラッシュ用	●						
Rp2		癌	**オプジーボ(ニボルマブ)**	360mg	30分	点滴静脈メイン	●						
			生理食塩液	100mL									
			総量100mLにする										
Rp3			生理食塩液	100mL	30分	経過観察用	●						
Rp4		癌	**ヤーボイ(イピリムマブ)**	1mg/kg	30分	点滴静脈メイン	●						
			生理食塩液	100mL									
			総量100mLにする										
Rp5			生理食塩液	100mL	30分	経過観察用	●						
Rp6			パロノセトロン(0.75mg)	1袋	15分	点滴静脈メイン	●						
			デキサート(6.6mg)	1瓶									
Rp7		癌	**ペメトレキセド**	500mg/㎡	10分	点滴静脈メイン	●						
			生理食塩液	100mL									
			総量100mLにする										
Rp8		癌	**カルボプラチン**	AUC 5(MAX6)	60分	点滴静脈メイン	●						
			生理食塩液	250mL									

順	滴下	抗癌剤	薬剤(成分名)	投与量	時間	投与方法	投与スケジュール day1	…	…	day22	…	…	day42
Rp1			生理食塩液	100mL	任意	ルート確保・フラッシュ用				●			
Rp2			生理食塩液	100mL	30分	点滴静脈メイン				●			
		癌	**オプジーボ(ニボルマブ)**	360mg									
			総量100mLにする										
Rp3			生理食塩液	100mL	30分	経過観察				●			
Rp4			パロノセトロン(0.75mg)	1袋	15分	点滴静脈メイン				●			
			デキサート(6.6mg)	1瓶									
Rp5		癌	**ペメトレキセド**	500mg/㎡	10分	点滴静脈メイン				●			
			生理食塩液	100mL									
			総量100mLにする										
Rp6		癌	**カルボプラチン**	AUC 5(MAX6)	60分	点滴静脈メイン				●			
			生理食塩液	250mL									

内服

その他必要薬剤	・アプレピタント(125mg):1cap分1　点滴開始時に内服(day1,22) ・アプレピタント(80mg):1cap分1　朝食後に内服(day2,3,23,24) ・デカドロン(デキサメタゾン)4mg:2錠分1　朝食後に内服(day2,3,23,24) ・葉酸:1日1回0.5mg(パンビタン末1g)を初回治療の7日前から服用し、最終治療21日後まで連日服用 ・ビタミンB12:1mg(メチコバール500μg 2A)を初回治療1週間前および以降は9週間毎に筋肉注射、その後アリムタ(ペメトレキセド)最終投与日から22日目まで9週毎に筋注
総投与時間	Day1:3時間30分、Day22:2時間30分
血管外漏出リスク	ペメトレキセド:非壊死性抗がん剤 カルボプラチン:炎症性抗がん剤 オプジーボ(ニボルマブ):非壊死性抗がん剤 ヤーボイ(イピリムマブ):非壊死性抗がん剤
投与時の注意事項	・ペメトレキセドはNSAIDsとの併用注意(ペメトレキセドの血中濃度が増加し副作用が増強される可能性がある) ・オプジーボ(ニボルマブ)、ヤーボイ(イピリムマブ)はフィルター付きルート要 ・オプジーボ(ニボルマブ)、ヤーボイ(イピリムマブ)は経過観察のため投与を30分あける
備考欄	day1オーダは「CBDCA+PEM+ﾆﾎﾞﾙﾏﾌﾞ+ｲﾋﾟﾘﾑﾏﾌﾞ療法　day1」、day22オーダは「CBDCA+PEM+ﾆﾎﾞﾙﾏﾌﾞ+ｲﾋﾟﾘﾑﾏﾌﾞ療法　day22」を使用する Infusion Reaction Grade2の場合、オプジーボ(ニボルマブ)あるいはヤーボイ(イピリムマブ)の投与を直ちに中止する。1時間以内に回復する場合には、投与速度を50%減速して再開する。 Infusion Reaction経験例では、次回より投与30分前に以下薬剤で前処置を行う。 レスタミンコーワ10mg　5錠 アセトアミノフェン300mg　2錠